

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能サポートランドさわおとの森 くるみ					公表日	令和7年1月28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		園内研修（定期）、外部研修への参加			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	1	8			公表に向け作成中、届け出に向かい手続き中である。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		毎日行われている「前日の振り返り」や支援記録の利用で情報が共有できる。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		月一回の会議の日にチームで検討、確認している。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9					

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	支援終了後は送迎により支援者が出てしまうので、日誌に当日の様子を入力している。全体的な振り返りは翌日の打ち合わせ時に行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	9			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	7	法人内に地域拠点センターふきのとうや障害児等療育支援事業「あとれ」があり、数は多くないものの保育所等訪問等により専門職からの助言を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		9		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	2		開催時には必ず参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	7	昨年度ペアレントトレーニングの研修を支援者を対象に行った。	家族等の参加できる研修の案内があった際には情報提供を行っていくようにする。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	7	法人内ふきのとうより案内があった自立支援協議会の兄弟時支援の案内などの配布を行っている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		3か月ごとに地域食堂（子ども食堂）を開催し地域住民を招待している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		園内研修や虐待防止委員会などで共有し、検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		虐待防止委員会主体の研修会を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		今のところ対象児はいないが職員には必要なことを周知している。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和 6年11月25日(月)～12月13日(金)		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 6年11月25日(月)～12月13日(金)		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年1月20日(月)		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内に専門職があり、必要に応じて多角的視点で支援の助言をもらえる。	解決できない問題は専門職の意見をもらえるようにしている。	可能な限り、直接支援の様子を見てもらえるような体制をとれるよう検討し、実施していく。
2	ショートステイが同事業所内にあること。ショートステイへ取り組みやすい環境がある。 その為、親元を離れた経験ができること。	学童期には親元を離れる経験が少ないため、ショートステイとの連携を図ることで本人が安心して宿泊できる環境を提供している。	今後も、子どもの自立を踏まえた上でショートステイとの連携を図っていく。
3	近隣が自然豊かで、広い園庭があり遊具で体を動かして遊ぶことができる。園庭遊具にブランコが増えた。	遊具遊びなど体を使って遊ぶ動作は脳への適度な刺激となることを踏まえ、行動や情緒の安定等につながるためにも日々活動に組み込み支援を行っている。 近隣の自然を生かし園庭の生き物を探す遊び等を行っている。	今後も設定活動や自由遊びを通して、体を動かす遊びを行っていく。 生き物や自然に触れ子どもたちの五感を刺激するような遊びを提供していく。

遊具

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	コロナの影響もあり保護者が活動を見る機会が少ない状況。	コロナ渦もあり、保護者参観などの機会が減ったまま現在に至っていた。	対策としておたよりに写真を多く入れることで子どもたちの活動の様子を家族が見れるようにしていた。 今後、保護者の方が参加できるような活動、保護者参観などを検討していく。
2	悪天候時、園庭が使えないことで活動の選択肢が少なくなる。	同敷地内の使える空間の連携が必要。 空いた時間の車両を使う等の都度調整が必要。 緻密な計画が求められる。	おやつや順番や活動のスケジュールを変更するなどして、選択肢の幅を広げていく。 同事業所内での連携を図り子どもたちの充実できる環境を設定していく。
3			